

# 環境美学－アイステーションの理－

美的文化と環境－21世紀における環境美学の視点から－

課題番号14310025

(平成14－16年度科学研究費補助金[基盤研究(B)(1)]研究成果報告書)

平成17年 3 月

研究代表者

広島市立大学芸術学部助教授

吉 井 章

## 序の詞

本科学研究費基盤研究(B)(1)の課題テーマは、「美的文化と環境—21世紀における環境美学の視点から—」である。それは私が、平成14年度から16年度の3年間にわたって、研究代表者として、広島市立大学を本研究の申請のための機関とし、その在職中に、多くの研究分担者に共同研究を依頼して遂行されたその成果報告である。そして、そのテーマを象徴的に示すために、環境美学というその広表に照応して、今回の研究の全体像をかえって狭く絞って「環境美学—アイステーシスの理—」とした。私は、平成15年度で同大学を退官し、代表者としての役割を辞さなければならなかったため、研究最終年度である平成16年度は、同大学芸術学部助教授吉井章氏にその役割を託し、取り纏めに協力していただいた。とはいえ私は、本研究の成果が今までの全体の流れの纏めになるので、その実質的な責務についてはここに負うことにした。

顧みるに、この環境美学という主題での研究は、実は私が東京芸術大学の教授として在任中に、その美学研究室出身の研究者を中核に組織した研究グループによって、平成3年度以来、一時の中断はあれ、継続されてきたものである。したがって本研究は、その延長に位置づけられるといえよう。

さて本研究は、その分担者は、今までの美学・芸術学の研究者ばかりではなくて、広島市立大学のアーティスト教官にも分担者として参加していただいた。そのことは、今までの研究の志向に自ずと質の異なっただけで実践的・実験的な分野にも広がり、その成果はかえって環境美学の実質的な深みに達したともいえよう。とりわけ具体的には、平成15年の秋、「表象都市 metamorphosis 広島—芸術実験展示プロジェクト2003—」の表題の下で、広島市内の「平和大通り」・「旧日銀広島支店」において、一ヶ月にわたる実験的制作とその展示およびシンポジウムが開催された。ここには、国内外のアーティストや美学・芸術学の研究者が招聘された。そこで特記すべきは、それに積極的に関与した広島市立大学芸術学部の3人の本研究分担者、すなわち上記吉井章助教授(油絵)、前川義春助教授(野外環境彫刻)、伊東敏光助教授(彫刻)らの研究への寄与であった。そのとき彼らの制作実験の経験とそこでえられた都市環境と芸術に関わる知見は、成果報告として、ここに収載されている。

東京芸術大学名誉教授 武藤三千夫(元研究代表者)

---

(注) ①武藤三千夫「美的環境形成論の基礎」、『成熟社会における藝術的都市環境—比較藝術学研究—』、平成3-4年度科学研究費補助金[総合研究(A)]研究成果報告書、研究代表者武藤三千夫、課題番号03301007、平成5年3月/②武藤三千夫「自然美から環境美へ—環境美学の構想—」、『都市環境と藝術—環境美学の可能性—』、平成6-7年度科学研究費補助金[総合研究(A)]研究成果報告書、研究代表者武藤三千夫、課題番号06301007、平成8年3月/③武藤三千夫「藝術における自然—アドルノのヘーゲル批判に拠りつつ—」、『KALLISTA カリスタ美学・藝術論研究 No.3』、東京芸術大学美術学部美学研究室、1996(平成8年)/④武藤三千夫「ヘーゲルの『美学講義』における自然」、『シェリング年報'97第5号』、日本シェリング協会編、晃洋書房、1997(平成9年)/⑤武藤三千夫「環境のうちなる自己—環境美学の視点から—」、『メタ環境としての都市芸術—環境美学研究—』、平成10-11年度科学研究費補助金[基盤研究(B)(1)]研究成果報告書、研究代表者井村彰、課題番号10410015、平成12年3月

# 平成14－16年度科学研究費補助金〔基盤研究（B）（1）〕 研究成果報告書

1. 研究課題 環境美学—アイステーシスの理—  
「美的文化と環境—21世紀における環境美学の視点から—」
2. 課題番号 14310025
3. 研究組織
- |       |   |       |                        |       |
|-------|---|-------|------------------------|-------|
| 研究代表者 | ： | 吉井 章  | 広島市立大学芸術学部             | 助 教 授 |
| 研究分担者 | ： | 武藤三千夫 | 東京芸術大学（元研究代表者）         | 名誉教授  |
|       |   | 金田 晋  | 広島大学名誉教授、東亜大学総合人間・文化学部 | 教 授   |
|       |   | 岡田 三郎 | 宇都宮大学国際学部              | 教 授   |
|       |   | 関村 誠  | 広島市立大学国際学部             | 助 教 授 |
|       |   | 伊東多佳子 | 高岡短期大学産業造形学科           | 助 教 授 |
|       |   | 利光 功  | 大分県立芸術文化短期大学           | 学 長   |
|       |   | 室井 尚  | 横浜国立大学教育人間科学部          | 助 教 授 |
|       |   | 寺田 英子 | 広島市立大学国際学部             | 教 授   |
|       |   | 佐藤 節子 | 東京家政学院大学人文学部           | 教 授   |
|       |   | 益田 勇一 | 白鷗大学発達科学部              | 助 教 授 |
|       |   | 椎原 伸博 | 実践女子大学文学部              | 助 教 授 |
|       |   | 前川 義春 | 広島市立大学芸術学部             | 助 教 授 |
|       |   | 伊東 敏光 | 広島市立大学芸術学部             | 助 教 授 |
4. 研究経費（補助金額）
- |        |            |
|--------|------------|
| 平成14年度 | 6,200（千円）  |
| 平成15年度 | 4,800（千円）  |
| 平成16年度 | 900（千円）    |
| 計      | 11,900（千円） |

## 研究課題に関する研究発表（各項目発表順不同）

### (1) 学会誌等の論文発表

平成14年（2002年）

- ・利光功「『百科全書』における「芸術」の概念」、『カリスタ 美学・芸術論研究』、第9号、東京藝術大学美術学部美学研究室編
- ・利光功「「文化芸術振興基本法」の理念と意義」、『アートマネジメント研究』、第3号、日本アートマネジメント学会編集、美術出版社
- ・利光功「総合美学へ向けて」『芸術世界』東京工芸大学芸術学部紀要、第8巻
- ・室井尚「記号論の逆襲」序文・討論、『記号論の逆襲』、東海大学出版会、山口昌男・室井尚編
- ・室井尚・藤幡正樹「対論メディア・メタモルフォーシス」、『記号学研究22—メディア・生命・文化』、東海大学出版会
- ・椎原伸博「かわいい夏休み—村上隆展「kaikai kiki」、村上隆キュレーションによるグループ展示「ぬりえ Coloriage」、『カリスタ 美学・芸術論研究』、第9号、東京藝術大学美術学部美学研究室編
- ・岡田三郎「自伝と美術批評—ハーバード・リードの美学的源泉(1)—」宇都宮大学国際学部研究論集13号

平成15年（2003年）

- ・金田晋「Views on “societing and a phase of Intersubjectivity: The Imported Concept of “社会” Society coined in Early Meiji Era.」『現象学からみた集合的心性論の新しい可能性についての研究』京都大学. 2004. 所収
- ・金田晋「美にかたちがある—明治美学と西欧美学の移植—」Symposion 14. 2004.
- ・金田晋「環境と色彩」第11回韓国美学研究会報告書（韓国嶺南大学）2004.
- ・金田晋「形象と価値の現象学—フッセル美学思想を弾機として—」東亜大学比較文化学金田研究室. 2004.
- ・岡田三郎「詩から美術批評へ(1)—ハーバート・リードの美学的源泉(2)—」宇都宮大学国際学部研究論集第15号
- ・室井尚「メディアアートという「現象」を読む」平成12~14年科学研究費補助金研究成果報告書
- ・椎原伸博「現代美術における戦略と戦術—村上隆とトーマス・ヒルシュホルンをめぐって」実践女子大学文学部紀要、第45集
- ・吉井章「近代日本における西洋絵画の受容について」広島市立大学芸術学部紀要、第8号

平成16年（2004年）

- ・金田晋「色彩と環境」アジアの芸術思想の解明—比較美学的観点からの研究—
- ・益田勇一「19世紀の生理学とニーチェの美学」埼玉純真女子短期大学『研究紀要』第20巻
- ・吉井章「現代日本における西洋絵画の受容の視点から」広島市立大学芸術学部紀要、第9号
- ・吉井章「西欧の美術—地中海圏都市との関わりにおいて」、地中海とバルト海「内海と現代」研究の一環として、広島市立大学特定研究報告書

平成17年（2005年）〔平成16年度分発表〕

- ・武藤三千夫「表象都市 metamorphosis 広島—芸術実験展示プロジェクト2003—研究報告」広島市立大学特定研究報告書

- ・前川義春「表象都市 metamorphosis 広島—芸術実験展示プロジェクト2003—研究報告」広島市立大学特定研究報告書
- ・伊東敏光「表象都市 metamorphosis 広島—芸術実験展示プロジェクト2003—研究報告」広島市立大学特定研究報告書
- ・吉井章「表象都市 metamorphosis 広島—芸術実験展示プロジェクト2003—研究報告」広島市立大学特定研究報告書
- ・吉井章「イタリア・ルネッサンス絵画の視点」「近代的『知』の成立」広島市立大学特定研究報告書

## (2) 口頭発表、シンポジウムなど

- ・室井尚「Problems on interpretation in the Age of Database」アメリカ日本文学会 (UCLA)
- ・関村誠 Makoto SEKIMURA, 《La réflexion sur soi et la perception des apparences chez Platon》, XXXe Congrès de l'Association des Sociétés de Philosophie de Langue Française (A.S.P.L.F), Université de Nantes, France. (フランス、ナント大学) 16年 8月
- ・利光功「アートマネジメントの役割」大分県立芸術文化短期大学主催公開シンポジウム「“芸術文化の振興のために” アートマネジメントの役割をめぐって」基調報告、平成17 (2005年) 1月29日

## (3) 出版物

- ・利光功『美と芸術のフェイズ』勁草書房、平成15年 (2003年)